

探究・校務改革
支援補助金
2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

【サービス名称】

世界とつながる学びプロジェクト

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

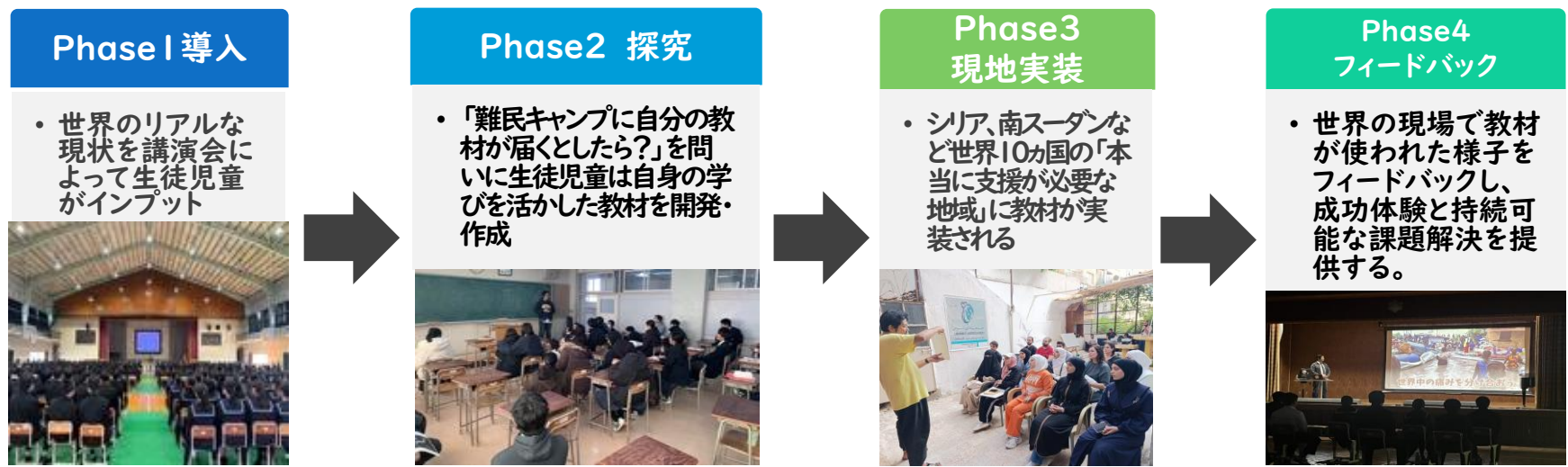
2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等



世界とつながる学びプロジェクトは、国際支援の現場を持つ教育支援NGO（なかよし学園）が、学校の探究学習を「導入→深掘り→実装→振り返り」まで一気通貫で支援するプログラムである。特に、学校現場で課題となりがちな「国際を教えられない」「探究の題材がリアルに作れない」「授業準備負担が大きい」といった制約を、現場写真・映像・当事者の声・海外実践ネットワークを活用して補完する点が強みである。

- 「現場起点」：内戦下・難民キャンプ・災害地域等の実際の支援事例を教材化し、学習内容を“自分ごと化”させる導入ができる。
- 「インプット→アウトプット→実装」の設計：講演で終わらず、ワークショップでアイデア化し、海外現地での実践（代行含む）まで接続する。
- 「年間運用の伴走」：単発イベントではなく、年間の流れ（Phase設計）として学校の探究サイクルに埋め込める。

2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

学習効果

- 世界の課題を「知識」ではなく「行動につながる課題」として捉える力（当事者意識、課題解決力、社会参画意識）を育成する。
- 多様な他者の状況を踏まえた傾聴力・共感力、探究のプロセスを回す課題解決能力、協働の中でのリーダーシップ等を、授業実装を通じて獲得する。
- 受講者コメント（講演感想・アンケート等）において、平和・戦争・差別等を「構造」として理解し、自分の行動変容に結びつけようとする記述が確認されている。

業務効率化・利便性（教員負担軽減）の効果

- 学校側は、探究テーマ設定・教材準備・外部調整が重い負担となるが、本サービスでは外部講師・現地情報・実践先接続を一体提供し、教員の設計負担を軽減できる。
- オンライン／オフラインの併用や、現場担当者からのブラッシュアップ支援（Zoom含む）により、校内の授業計画に合わせた柔軟な運用が可能である。

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

3) サービスの活用場面 本サービスは学校の状況(学年・発達段階・探究の到達目標)に応じて、以下の場面で活用される。

- 探究の導入: 世界の現状を知る講演会(国連ACUNS等で発表実績のあるNGO団体による現場の写真・映像・当事者の声を活用)
→ 総合的な学習の時間、社会科、英語などあらゆる授業、部活動、生徒会活動などでの導入が可能
- 探究の深掘り: 講演内容を基にしたワークショップで課題を構造化し、アイデア創出・仮説立案を行い、アウトプットまでナビゲート
- 実装・実践: 生徒のアイデアを海外現地で教育実践として実装(実績のあるNGOが実践代行し、国際会議や国連等でも紹介)
- 振り返り・発表: 成果を整理し研究発表につなげ、次のアクションを設計する(学校行事・探究発表会・総合型選抜の活動実績化等)
- 年間運用: **Phase**設計により、年間を通じて無理なく探究学習を継続できる(1年間で2~3カ国のプロジェクト参加設計可能)

4) 1サービスあたりの標準販売価格

補助金を利用しない通常提供時の標準販売価格(税込)は以下の通り。

- **メインサービス【世界とつながる学びプロジェクト】**: 198万円/年(165,000円/月)
↳ 年間を通じた探究実習授業サポート
(導入、講演会、教材制作コンサル、現地実装、フィードバックをフルサポート)
- **オプションサービス【総合選抜対策授業(高校入試・大学入試)】**: 22万円/1セット
↳ 総合型選抜対策、より高度な探究、プレゼン発表法、探究を職業へ活かす方法等の追加授業



「世界とつながる学び」参加校の教材が現場に届く

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

事前打合せて学校の到達目標・年間計画を設計し、講演・ワークショップ・教材制作を伴走。当社現地パートナーと連携して海外実装とフィードバック回収及び生徒児童へのビデオ教材還元まで担い、「世界と自分がつながった」当事者意識を育む探究を実践。発表・振り返り、事前事後アンケートの集計テンプレート提供で効果測定も支援する。

学校現場では、探究を深める“本物の題材”不足、教員の教材設計・外部調整負担、成果を行動と学びの循環へつなく難しさが課題である。本事業は、紛争地等の現場教材と海外実装先を提供し、講演→探究WS→教材制作→海外実装→振り返りを一体伴走することで、教員・生徒が未知の課題を自分ごととして捉える当事者意識を育み、NGO介在による実装・フィードバックで成功体験を可視化し、自己効力感の向上を促す。

児童生徒・教職員が抱える課題

探究テーマが「教科知識」や一般論に留まり、当事者意識（自分ごと化）が生まれにくい。

未知の課題に対して「自分には何もできない」という無力感が生じ、行動に結びつきにくい。

探究の成果が校内発表で終わり、社会との接続（実装・波及）が作れない。

学校内に国際・平和・開発等の専門性が不足し、深い問いや教材設計が難しい。また教員の負担（教材準備、外部調整、時間割調整、評価設計）が大きく継続運用が難しい。

探究の評価（事前事後の変化、定性・定量の整理）が難しく、成果を説明しづらい。

児童生徒の多様性（特別支援を含む）に配慮した参加設計が難しい。

サービスが果たす役割

国連発表も行うNGOが専門家として授業に入り、紛争地・難民キャンプ等の現場教材（写真・映像・当事者の声）で課題を具体化し、探究の動機づけを強化する。

講演→ワークショップ・教材制作→海外実装→フィードバックの循環（CoRe Loop）、特に世界の紛争地や貧困地域での現場実装により、成功体験を可視化し自己効力感を高める。

海外の実装先（学校/NGO等）を提供し、成果物をNGOを通して現地活用し、国連発表など社会実装まで到達させる。

NGOの知見を基に授業設計・教材テンプレ・コンサルを提供し、深い問いの設定と学びの深掘りを支援。企画設計・外部調整・現地連携・評価テンプレを一体提供し、準備・調整工数を削減して継続実施を可能にする。

事前事後アンケート設計・集計テンプレ・コメント整理を提供し、定量×定性で効果を可視化する。

学年・発達段階に合わせた内容調整と、参加方法（対面/オンライン、役割分担）を設計し、誰もが参加できる形で運用する。

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

1) このサービスの活用概要(岐阜県安八町結小学校での事例)

探究が“調べ学習で終わる／本物の題材が不足する／外部調整が教員負担になる”課題に対し、なかよし学園が現地教材・授業設計・海外実装先を一体提供。講演→探究WS→教材制作→カンボジアで授業実装→反応の里帰りまでを循環化し、児童生徒の当事者意識と成功体験(自己効力感)を可視化した。

2) 授業の流れ

①導入(講演): 現地の学習環境を提示し「今できること」を問い化。探究の出発点を揃え、当事者意識を形成。



②探究WS: 課題と解決案を整理(誰の困りごと／何を届けるか)。制作物の仕様を決め、実装可能性を検討。



③制作(国内): 低学年は遊び×学び教材、高学年は防災バックや英語防災教材等を作成。成果物を整理し提出。



④海外実装(カンボジア・ルワンダ): 制作教材を避難下の授業で活用 (NGOが調整・実装)。活用写真・コメントを回収。



⑤里帰り・振り返り: 現地反応を教室に還流し、学びと改善点を整理。発表・次の探究へ接続し学習を深化。



活動各地の同世代の生徒児童が結小学校の児童たちに感謝の気持ちを伝える手紙や、現地行政府からの感謝状などがフィードバックとして学校に還る。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	13	学校等教育機関数	24校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	木島平村教育委員会	木島平村立木島平中学校 他1校	長野	小・中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
2	佐倉市教育委員会	佐倉市立間野台小学校 他1校	千葉	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
3	安八町教育委員会	結小学校 他5校	岐阜	小・中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
4	岡山県教育委員会	矢掛高等学校	岡山	高等学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
5	神石高原町教育委員会	神石高原町立油木小学校	広島	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
6	神石高原町教育委員会	神石高原町立三和小学校	広島	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
7	三次市教育委員会	十日市中学校	広島	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
8	三次市教育委員会	三良坂中学校	広島	中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
9	三次市教育委員会	清河小学校	広島	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
10	加古川市教育委員会	両荘みらい学園	兵庫	その他	全学年	総合的な学習(探究)の時間
11	対馬市教育委員会	東部中学校	長崎	中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
12	対馬市教育委員会	西部中学校	長崎	中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	13	学校等教育機関数	24校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
13	壱岐市教育委員会	石田中学校	長崎	中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
14	三島村教育委員会	三島竹島学園	鹿児島	小学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
15	学校法人大隈記念早稻田学園	早稲田佐賀中学校	佐賀	中学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
16	学校法人中野学園	オイスカ浜松国際高等学校	静岡	高等学校	全学年	総合的な学習(探究)の時間
17	特定非営利活動法人寺子屋方丈舎	特定非営利活動法人寺子屋方丈舎	福島	その他	全学年	総合的な学習(探究)の時間

定量的効果検証

調査概要と効果指標の定義

【児童生徒調査】

方法:導入後アンケート(5件法・3件法)

N=1,555(低学年35/高学年400/中学1,017/高校103)

測定指標:自己効力感/CoRe Loop実感/学習意欲/行動意欲

【教職員調査】

方法:導入後アンケート(5件法)

N=126

測定指標:つながり気づき(生徒の変容実感)/総合満足度/業務軽減

【対象設問(児童生徒:低学年版の設問例)】

A.自己効力感:Q1「せかいで こまっている人のために、じぶんにも できることが ありそうだ。」

Q2「うまくいかないことがあっても、あきらめなくて がんばれば なんとかなるとおもう。」

C.学習意欲:Q6「せかいや ほかの国のことを、もっと しりたいと おもう。」

Q7「『せかいとつながるまなび』で、べんきょうを がんばろうと おもえた。」

D.CoRe Loop実感:Q8「外国の人と 話したり、じぶんたちが 作ったものが 外国で つかわれる話を聞いて、
せかいと つながっていると かんじた。」

F.行動意欲:Q13「大人になったら、せかいや じぶんの まちの ために 何かしてみたい。」

【対象設問(教職員)】

A1「生徒の『世界と自分の地域のつながり』への気づきが高まったと感じる。」/C9「授業準備にかかる時間は軽減された。」

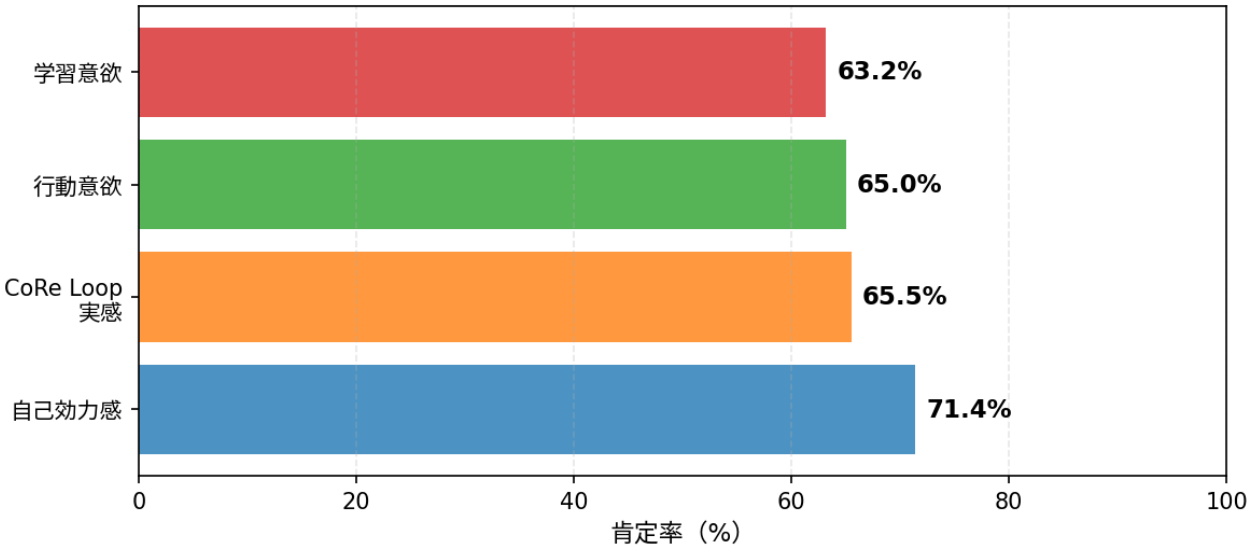
D15「総合的に見て、『世界とつながる学び』への満足度は高い。」

※次年度は導入前(事前)も同一尺度で取得し、前後比較による効果を明確化する計画です。

定量的効果検証

児童生徒（全体）定量結果：肯定率と解釈

児童生徒（全体）定量結果：主要指標の肯定率



【調査概要】

方法：導入後アンケート（5件法）
N=1,555（低学年35／高学年400／中学1,017／高校103）

【結果のポイント】

- 全体で6～7割が肯定的回答を示した
- 特に自己効力感（71.4%）と行動意欲（65.0%）の伸長が示唆される
- CoRe Loop実感・学習意欲も6割超で肯定され、当事者意識の醸成が一定程度見られる

【対象設問（低学年版の設問例）】

自己効力感：Q1「せかいで こまっている人のために、じぶんにも できることが ありそうだ。」

CoRe Loop実感：Q8「外国の人と 話したり、じぶんたちが 作ったものが 外国で つかわれる話を聞いて、せかいと つながっていると かんじた。」

学習意欲：Q7「『せかいと つながるまなび』で、べんきょうを がんばろうと おもえた。」

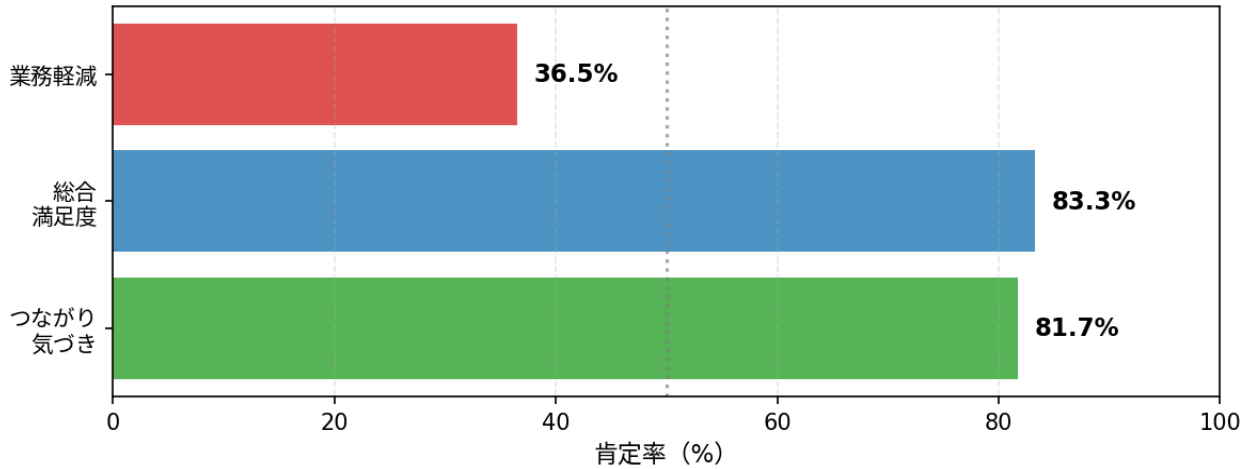
行動意欲：Q13「大人になったら、せかいや じぶんの まちの ために 何かしてみたい。」

※学齢によって設問表現が異なります（上記は低学年版の例）

定量的効果検証

教職員定量結果：学習効果×業務効率化

教職員定量結果：主要KPI



【調査概要】
 方法：導入後アンケート(5件法)
 N=126(各設問)

- 【解釈(2点)】
- 学習効果への評価は8割超と高水準
 つながり気付き81.7%、満足度83.3%
 - 業務効率化は36.5%に留まり限定的
 →標準化・運用改善が必要

【対象設問(教職員アンケート)】

【つながり気付き】A1「生徒の『世界と自分の地域のつながり』への気付きが高まったと感じる。」
 【総合満足度】D15「総合的に見て、『世界とつながる学び』への満足度は高い。」
 【業務軽減】C9「なかよし学園から提供された教材・事前資料・サポートにより、授業準備にかかる時間は軽減された。」
 ※業務効率化については、テンプレート整備・役割分担明確化・進行管理の標準化により改善を図る

定性的効果検証

児童生徒定性結果：自由記述による主要カテゴリ

【自由記述母数】有効N=1,079名(対象1,555名)

カテゴリ1：当事者意識(自分ごと化)

世界の現実を具体的素材で学び、遠い課題が自分の生活や選択と結びついた。差別や戦争の構造を考える視点が育ち、ニュース理解が深化。

【代表コメント】

- ・「現場の声を聞き、世界の課題が自分ごとになった」(高)
- ・「差別が生まれる仕組みを、具体的に深く考えられた」(中)
- ・「ニュースを流さず、理由や因果まで考えるようになった」(中)

【対象設問(自由記述)】

Q15「『せかいとつながるまなび』で、一番たのしかったこと・心にのこっていることをかいてください。」

Q16「つぎにこんなことをしてみたい、こうなるといいなとおもうことがあったらかいてください。」

※上記は低学年版の設問。学齢別に同趣旨の自由記述を取得し分析している。

【示唆】当事者意識に関する言及が圧倒的に多く、次いで自己効力感が高い傾向。
定量結果(自己効力感71.4%)と整合し、「自分にもできる」実感が広く醸成されている。

カテゴリ2：自己効力感・行動意欲(自分にもできる)

成功体験の提示と現地実装の見通しが、自分にもできる感覚を醸成。参加・発信・寄付など具体的行動の意欲が顕在化。

【代表コメント】

- ・「案が現地で使われ、自分にもできると強く自信がついた」(中)
- ・「募金だけでなく発信や企画にも継続して挑戦したい」(高)
- ・「次は地域の課題にも応用して、解決策を試したい」(中)

定性的効果検証

教職員定性結果：課題と改善提案／総括

【自由記述母数】有効N=55名(対象127名)

① 教育効果(授業の質・生徒変容)

- ・探究の深まり、主体性の伸長を確認
- ・世界×地域の接続、成功体験の可視化
- ・準備負担軽減により指導の質向上

② 運用課題

- ・補助金運用・専門用語の理解不足
- ・校内調整の時間確保が困難
- ・写真同意・提出導線が不明確

③ 改善提案(次年度対応)

- ・用語解説・記入例の事前提供
- ・期初合意による校内調整支援
- ・窓ロー本化とテンプレ整備

【対象設問(教職員自由記述)】

Q19「良かった点や、生徒の具体的な変化で印象的だったエピソード」／Q20「実施する中で感じた課題(時間・人員・校内調整・オンライン環境など)と、その原因」／Q21「来年度以降、改善・強化してほしい点や支援形態の要望」／Q22「その他メッセージ」

【総括：成果／課題／次年度対応】

【成果】児童生徒の当事者意識・行動意欲の伸長が定量的に示唆され(自己効力感**71.4%**、行動意欲**65.0%**)、教職員の学習効果実感・満足度も8割超(つながり気づき**81.7%**、総合満足度**83.3%**)と極めて高い。

【課題】学習効果の高さに対し、業務効率化(準備軽減**36.5%**)の実感は限定的であり、補助金運用・専門用語の理解不足、校内調整の時間確保、提出導線の不明確さが現場負担として指摘された。

【次年度対応】補助金運用の事前説明を強化し、用語解説・記入例を期初に提供。回収導線の整備、提出物・教材テンプレートの標準化、窓ロー本化により、運用面の負担軽減を徹底する。

[児童・生徒]

1. 当事者意識(自分ごと化)・世界理解

- (中1) 「支援が必要な人を笑顔にしたい。調べて理解し、誰かに伝えることなら誰でもできる。」
- (中3) 「“状況を知る”ことが第一歩。世界と自分の距離が縮まった。考え次第で前向きに生きられる。」
- (小6) 「日本は安全だが、戦争や貧困で苦しむ人がいる。自分にもできることをやってみたい。」

2. 自己効力感(自分にもできる)・ロールモデル効果

- (小4) 「最初は手伝えないと思ったが、『手がある』と言われて“私にもできるかも”と思えた。将来先生みたいになりたい。」
- (小4) 「怖い状況でも冷静に人を守っていたのがすごい。勇気のある人だと思った。」

3. 行動意欲(次の一歩)

- (中3) 「寄付できるものがあれば、自分のできる範囲で協力したい。」
- (中2) 「できないから諦めるのではなく、一步一步の協力が必要だと思った。」
- (小5) 「食べ物をつくって、困っている人に届けたい。」

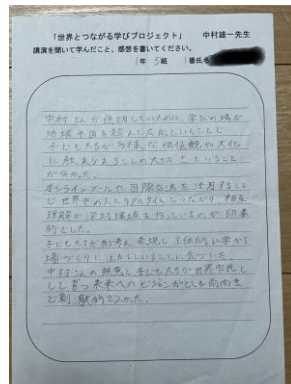
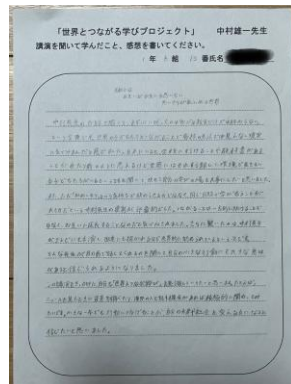
4. 世界とのつながり実感(CoRe Loop)

- (高3) 「戦争が“無縁”ではなく、同じ地球に住む以上無関係ではない。自分にできることを考えるようになった。」

[教職員]

1. 学習効果(探究の質・生徒変容)

- 中学校教諭 「『いつかできたら』が『今できそうなことをやってみよう』に変化。地域課題を魅力に変える制作まで到達し、達成感が大きい。」
- 高校教諭 「現地の実情(動画)に衝撃。成果物が現地に届き、お礼が来たことで『本当に世界とつながっていた』と感激していた。」
- 中学校教諭 「英訳絵本を現地に持参しフィードバックを得たことが、世界を身近にし“自分事化”の契機になった。」
- 小学校教諭 「子どもがシリアの現状を調べ、贈り物を考え制作する表情が“平和を願う優しい表情”になっていた。」
- 高校教諭 「戦争下で学ぶ子どもの実態が生徒の心に響き、恵まれた環境の実感と“自分に何ができるか”へつながった。」
- 高校教諭 「普段触れない課題を知り、考える入口になった。世界には生活がままならない国が多いと理解できた。」



■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

各校ごとの探究カリキュラムとの調整負担や、人員の少なさによるオペレーション負荷を、標準パッケージ化・指導案整備・業務のマニュアル化で乗り越えようとしている。

さらに、補助金に依存しすぎない通常販売モデルと、簡易なアンケート+事例集約による効果検証を組み合わせ、持続可能でエビデンスのある「世界とつながる学び」を全国に展開していくことを目指している。

直面した課題

補助金採択の時期が、新学期が始まってから。且つ、6月スタートということもあり、学校側との年間計画を立てにくかった。

役割分担（誰が何をいつまでに行うか）が、不明瞭で、遅延が生じた。

補助金申請や、各種書類の作成に、想像以上に時間がかかり、本来行うべき業務に支障が出た。

サービス価値（探究活動の狙い・到達目標）が校内で共有されず、理解度に差が出た。

開始時期が遅れたこともあり、事前アンケートを収集するタイミングを逃した。

解決するための改善策

ゆとりを持った制度設計にする。

導入前オリエンテーションを実施し、プロジェクトの全体像（提出物・期限・役割）を整理して共有。
学校向け「提出物チェックリスト」「手順書」を配布を行う。

業務のマニュアル化・人員を増やす。

管理職・担当・学年会向けに要点を1枚化（目的・到達目標・成果物・評価方法）。
導入初期に校内説明用資料を提供し共通理解を形成

細かな制度設計を行い、漏れがないようにする。

■会社概要

社名	特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト
代表	中村雄一
設立年月	2019年4月
本社	千葉県松戸市小金原4丁目14-14
資本金等	—
売上高等	約1,200万円(令和7年度見込)
従業員数	6名
事業内容	<p>国内外の教育支援事業 紛争・貧困・災害等の影響下にある地域(海外)および国内の学校・地域において、基礎教育支援、学習機会の提供、平和教育・国際理解教育を実施。</p> <p>学校向け探究学習・校務改革支援事業 全国の小中高校等と連携し、総合的な探究の時間等における授業設計、外部講師派遣、教材開発、オンライン交流、成果発表までを伴走。教員の教材準備・外部調整負担の軽減を含む運用支援を行う。</p> <p>教材・プログラム開発事業 学校現場で活用可能な探究教材、平和学習教材、国際協力教材を開発し、授業実装まで含めて提供。国内の学びを海外現地に還流させ、フィードバックを回収する循環型モデルも運用。</p> <p>人材育成・研修事業 教員・自治体・企業・学生等を対象に、探究学習運用、国際協力、平和構築、SDGs、危機管理等に関する講演・研修・ワークショップを実施。</p>

■お問い合わせ窓口

担当:中村里英

電話:047-704-9844

Mail:peace.office@nakayoshigakuen.org